

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	01-04-01-04
事務事業名	交通安全施設整備事業	根拠法令・要綱等	道路法・道路構造令
事業開始年度	平成17年度～	問合せ先	都市整備課
大項目	基本目標 安全で快適に暮らせるまちづくり	担当課(室)	都市整備課
中項目	基本施策 安全で安心して暮らせるまちづくり	職・氏名	土木係長・梶藤 勲
小項目	施策 交通安全施設の整備	電話	0869-64-1835

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	市道を通行する歩行者・自転車・二輪車・車両
目的(何のために)	市道における交通事故数の減少、重大事故の軽減を図る。
行政活動(どのような方法で)	道路にガードレール等の防護柵、カーブミラーを設置する。安全通行のための道路標示、道路標識を設置する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	市の管理する道路における交通事故件数を年間2%減少させる。

事業の実績						
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	カーブミラー	基	17	13	14	
	ガードレール等	m	263.3	590.3	357.8	
	整備箇所数	箇所	36	40	27	
	市道交通事故件数	件	61	59	60	
	交通事故減少件数	件	21	2	-1	
	事業費	直接事業費	千円	10,295	8,223	5,943
		人件費	千円	6,289	3,146	1,604
		事業費計	千円	16,584	11,369	7,547
	財源	国・県・市支出金	千円			
受益者負担		千円				
一般財源		千円	16,584	11,369	7,547	
	必要人員	人	0.76	0.48	0.27	
結果指標①	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	結果指標量	円	6,289,000	3,146,000	1,604,000	
	対前年比	%	-	50.0%	51.0%	
	活動コスト	円	10,295,000	8,223,000	5,943,000	
	単位当たりコスト	円	610,879	382,585	269,897	
結果指標②	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	結果指標量	件	21	2	-1	
	対前年比	%	-	9.5%	-50.0%	
	活動コスト	円	16,584,000	11,369,000	7,547,000	
	単位当たりコスト	円	789,714	5,684,500		

事業の成果			
成果指標名	事故件数	式又は説明	市の管理する道路で発生した事故件数
			17年度 18年度 19年度
成果指標量	61.00	59.00	60.00
対前年比	-	96.72%	101.69%
到達目標値	49	到達目標年度	平成28年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	A
目的	関法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	課題認識	備前市内において、市が管理する道路における交通安全施設の設置は道路を管理する市が関与するのが適している。
	現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である		
	事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
	事業開始当初の目的から変化している		
対象	対象を見直す必要がある	効率性評価<A~E>	B
	対象を見直す必要はない		
行政活動	事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない	課題認識	施設の設置事業が都市整備課に移され、課に寄せられる他の事業要望と取りまごめを同一に出来ることにより、効率化が図れている。新たな交通安全機材も開発されており、それらの効果を見極め、費用対効果が高いものを採用していく必要がある。また、事故件数を減らすため整備箇所について検討していく必要がある。
	事業の意図する成果		
市民ニーズ	現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	有効性評価<A~E>	B
	市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
市の関与	本市が関与しなければならない事業である	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
コスト	事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい		
効率性の評価	コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
手	受益者負担額を見直す余地がある	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
職	最適な手段を求めて職場内で改善に努めている	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
目的達成度	事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
有効性の評価	事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである		
成果向上の可能性	成果指標は前年度より向上している	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	成果は向上しており今後も向上する見込みである		
市民参画度	今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	事業について積極的に情報提供している		
市民参画度	事業実施等で積極的に市民意見を反映している	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		
市民参画度	事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	課題認識	事故件数を年々減少傾向にいき効果を上げていくために、他部署のソフト事業と連携して、事故防止のための施設整備を行って行くとともに、事故防止には各々の交通安全に対する認識を深めるのが重要であることを啓発して行かなくてはならない。
	事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		

平成20年度の状況		説明	毎年徐々に事故件数を減少していくために、まだまだ施設を設置し交通安全を図っていく必要がある。また地元からの要望も多い事業である。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量①	100,000	結果指標量②
	成果指標量		58.00

総合評価	評価区分<A~E>	B	
必要とされている事業であり、事業により交通事故防止が図られていると思われる。今後も重点的に行う必要のある事業である。			

平成21年度以降の方向性		説明	平成20年度で廃止・完了
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する		

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	危険箇所の早期整備を図る。	H20~	事故を未然に防ぐことが出来る。
有効性	警察と協力し、事故箇所を道路別に分別する。	H20~	事故の多い箇所に施設整備を行うことが出来る。